

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教法人日本バプテスト連盟総務部

「もんじゅ」は廃炉になるが 《原発課題コラム》

日本福音ルーテル稔台教会牧師 内藤新吾

高速増殖炉「もんじゅ」について、政府は9月21日、「廃炉を含め抜本的な見直しをする」とした。これは長年の危険を訴えてきた人々の結んだ実である。しかし、まだ手放しで喜べない状況があり、気を緩めてはならない。

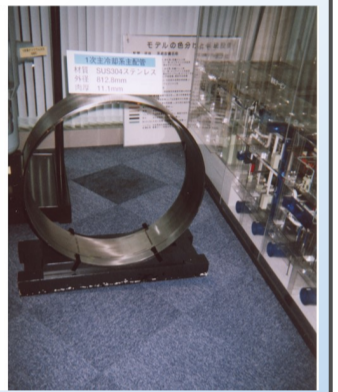
「もんじゅ」はとうの昔にボロボロで、運転再開など到底無理であった。多数の機器点検漏れや安全管理上の不備などもお粗末な話だが、仮にそれらがクリアされていても、使い物にはならなかった。しかし、それでもずっと廃炉を決定しなかった。それは、政府が長年、プルトニウムに固執しているからである。

だから、ついに「もんじゅ」廃炉を認めざるを得なくなっても、政府は「高速炉開発会議」を新設し、核燃料サイクル政策も維持するとした。つじつま合わせでプルサーマルを行い、プルトニウムを手放さないつもりである。また、停止中の「常陽」（もんじゅの一世代前の実験炉）の再稼働にも触れた。さらにはフランスが建設予定の新型高速炉「アスト

リッド(ASTRID)」も共同研究するとした。これは既に2年前フランスと合意済みのもので、冷却材にナトリウムを用い高速の中性子を扱う炉の研究を堅持した。それは高純度のプルトニウムを生み出すのに不可欠の技術だからである。勿論そのことは表に出さず、高寿命の死の灰を核変換するための研究だと説明するが、全く非効率のうえ膨大な放射性核種が出てくることに変わりはない。そしてそれは超危険な炉である。

ナトリウムは空気に触れると燃え、水に触れると爆発する。配管も、温度差による破裂を避けて非常に薄い。しかもMOX燃料の高速炉は、アツという間に核暴走の恐れがある。大事故を起こせば世界は終わりだが、実は再処理工場もまた同じ位の危険性がある。こうしたものに莫大な金をかけ執着する政府は、とても資源の利用などを考えている神経ではない。あるのは、軍事的な野望と兵器商売だろう。キリスト者は見張りの務めがある。

もんじゅ1次系配管厚さ：たった11mm、地震に弱い→



《原発課題班からの推薦》 「原発と宗教 未来世代への責任」 富坂キリスト教センター編 (いのちのことば社刊) 1,800円(税別)

2011年3月に起こった東京電力福島第一原発事故。「本質的に生命世界とは相いれない」とされる「核」に対し、医学、行政、法、市民運動の現場からの発題を受け、キリスト者の責任を問い直す。(本書の帯のキャプションより)

「西南学院大学ボランティアチーム大槌町支援活動」

横須賀長沢キリスト教会 大須賀綾子

今年も8月、10月の2回、西南学院大学のボランティアチームが連盟諸教会と協力し、総勢20名前後の団で大槌町の支援活動を行いました。参加者は、水曜日に岩手県に入り、大槌町のそばの宿泊施設に泊まって、研修、準備、支援。最後の日曜日に盛岡教会で主日礼拝を守って、帰途につきました。

復興作業が停滞していた大槌町は、最近ようやく土地の嵩上げや道路舗装が落ち着きつつあります。しかし、現在の復興団地は必要数とされている3割しか完成しておらず、町が出来上がり、仮設が全てなくなるのは二年先の見通しとのこと。それも極めて不確実な見通しで、未だに先が見えない日々が続いています。台風被害もあり、いつも何か困難がある状況が続いています。

そのなかで、「バプテストさんのお茶っこ」は、ボランティアの少なくなった大槌町で、信頼され、受け入れられています。そして、宿泊施設でも、道を歩いている、お買い物をしている、ボランティアは声をかけられています。

ずっと仮設に住んでいる方、住んでいた仮設が縮小されて別の仮設に移動した方、家を建てた方、復興住宅に移った方など、お茶っこに参加される方々の状況も著しく変化しています。そのような方々と、ボランティアたちは、お茶っこで出会います。楽しく冗談まじりに話していたかと思うと、突然津波のことに話題が変わるといふ激動の対話のなかで、被災地、被災者、という「枠」が取り去られ、目の前のおじいちゃん、おばあちゃん、一人一人の命、に向き合っていきます。「あなたに会えて、嬉しい」と逆に励まされます。

10月の支援では、実際に津波に巻き込まれ、泳いで助かったという、バスの運転手さんと出会いがありました。ボランティアの活動を支えてくださる方が、「みんなの様子を見て、励まされます」と声をかけてくださいました。今年のボランティアたちも、「生きている一人一人の命」との出会いが胸に刻まれたようです。

<写真>

(上) : ワークショップ「秋のモビール」

(下) 「お茶とおしゃべり」



「子ども避難保養プロジェクトに参加して」

福島旭町キリスト教会 川崎 可奈子

いつも東北のことを覚えてお祈りくださり、ありがとうございます。また、震災後の子供たちのケアのために、保養の支援をして下さっていること、心から感謝いたします。

7月28日～30日に「子ども避難保養プロジェクト」で山形県天童市・蔵王町に大人7人・子供10人で行ってきました。(大人2人・子供2人は2日目から参加)

天童市ではお天気にも恵まれ、山形県総合運動公園で流れるプールやウォータースライダーで3時間、思う存分水遊びを満喫しました。東日本大震災以降、放射能は水に反応するために屋外プールを使用することに漠然とした不安があり、長時間利用することを躊躇していたので、何の不安も無く水に親しむ時を与えて下さった主に感謝します。

翌日、蔵王町で東北連合の信徒大会に参加して、他教会の方々と交わり、主はいつも私たちと共にいて下さると改めて感じました。子供たちは、陶芸体験をさせて頂き、思い思いの作品を作っていました。初めて回すころに目を輝かせ、土と格闘する子供たち。とても貴重な体験ができ、後日郵送されてきた各々の作品を得意気に見せてくれました。

震災から5年が過ぎ震災前の生活に戻りつつありますが、子供たちを自然に触れさせることは、福島ではまだまだ容易なことではありません。1日も早く放射能の呪縛から逃れ、安心して生活できる福島になることを願います。

<写真> ホテルの前での記念撮影と陶芸体験中の子どもたち



9月震災募金 実績：340万円(目標：600万円)

8～9月募金者(敬称略)：24名(口)の方々から献げられました。感謝します。

大村古賀島、伊集院、鹿兒島、西南学院、調布、中野、目白ヶ丘、久保祐子、相浦光、恵、丸亀城東町、古賀、恵泉、姪浜、調布、鮫、豊橋、大村古賀島、ふじみ野、西関東連合 女性一日研修会席上献金、宮原、日立、東北バプテスト連合信徒大会 開会礼拝献金、福岡